

コソボ共和国と外交官のキャリアについて

レオン・マラゾーク

(執筆＝ミラー成三)

■講演者……レオン・マラゾーク（コソボ共和国駐日大使）

■司 会……前澤宏和（本学学事部課長）

■コメンテータ……鈴木健太（東京外国語大学世界言語社会教育センター特任助教）

■使用言語……英語

本稿は、二〇一九年二月五日に神田外語大学にて行われたコソボ共和国駐日大使レオン・マラゾーク氏による特別講演会の報告である。講演会ではマラゾーク氏が会場の聴衆に問いかけながら講演を行った。簡単にではあるが、以下にその内容をまとめる。

外国語学習について

本日はこの素晴らしい大学にお招きいただきありがとうございます

ございます。スライドを提示して講演を始める前に、なぜ外国語を学ぶのが大切なのかについて少しお話させて頂きたいと思います。今日、テクノロジーは私たち人間が専門に行ってきたことに取って代わってきています。言語もその一つであり、今では翻訳のためのソフトウェアなども数多く存在しています。例えば、日本語を英語に翻訳することも容易であり、その大まかな意味を理解することも可能です。しかし、これが十分な形で行えることは現在も、またこの先も不可能であると思います。私たちが外国語を学ぶときには文化やその国家について実は学んでいて、こうした洞察力を身につけることになるからです。例えば、ある国の詩を学んだとしましょう。その後その国について考えるようになりますし、さらにその国についてなんらかの決断を下すこともできるようになるのです。外国語の構造を学ぶことは、その国の人々がどのような考えを持っているのかを知ることにもつながります。



レオン・マラゾーク氏

これは、私たちは自らが使用する言語に少なからず影響を受けているからです。例えば、日本語は非常に文脈が大切な言語であるように思います。ですから、私の日本での生活の経験上、日本の人々は他の国の人々に比べて状況を読む力が強いように思います。それに比べて英語などはよりはっきりと主張する言語で、そのためアメリカの人は自らの意見をはっきりと主張するように思います。ですから、私は言語がその言語を操る人々に影響を与えていると考えますし、言語を学

ぶみなさんがこの先様々に重要な役割を担うことになると思っています。また、今日では地球温暖化など世界規模の問題が見られるようになってきており、もはや一つの言語のみで生活するのは容易なことではなくなっています。このような意味でも、外国語を学ぶみなさんの世代の人々が、これからより重要になってくると考えています。

さて、現代では情報はオンラインでいくらでも検索することができるようになっています。そのため、単なる情報についてはできるだけ時間をとらず、スライドを通してみなさんが興味をもつであろう日本との違い、あるいは日本とコソボの類似点についてお話ししたいと思います。ではまずみなさんがコソボについて何を知っているのか、どんなイメージを持っているのかお聞きしたいと思います。誰かいらっしゃいますでしょうか。

【学生1】 コソボについてはあまりよく知らないのですが、以前歴史の授業で内戦があったというのを習ったことがあります。

ありがとうございます。それでは、その戦争は現在も行われているのか、あるいは終結したのかは知っていますか。戦争は二〇年ほど前に終結しています。コソボはその二〇年間で



講師を紹介する宮内孝久学長

大きな変化を経験しました。ある雑誌では「コソボについて知っていることは忘れよう」というタイトルがつけられたほどです。ですので、現在のコソボがどうなっているのかをお話したいと思います。まずはコソボの歴史について少しだけお話しします。

コソボの歴史

さて、ヨーロッパの歴史をさかのぼってみてみると、多くの人が古代ギリシャやローマ帝国についてご存知でしょう。ではその古代ギリシャとローマ帝国の間の期間、おおよそ紀元前後の頃にはなにかあったでしょう。この時代に私たちの祖先がこの地域、すなわち現在の旧ユーゴスラビア南部のあたりに移り住んできたと言われています。ある場所から違う場所に移り住むと言うのはどの国にもあることです。その間たくさんの戦争が起きました。また七―一世紀頃にはスロバキア系の人に移り住み、現在もこの地域の多数派となっています。私が歴史についてお話ししたいのは、誰が移住者で誰が元々そこにいたのかを歴史が決めるからです。歴史には大きなバイアスがかかっていることを忘れてほしくありません。その後六〇〇年ほどはこの地域はオスマントルコの支配下にありました。支配下といっても多くの言語が残っていたことから、抑圧的なものではなく、交流も多かったとされています。この時代のことはあまり多く話さないでおきましょう。次のスライドには、この地域における第一次世界大戦後の言語が色分けされて示されています。一つだけ明らかに異なる言語が存在しているのがお分かりになるでしょう。これがアルバニア語であり、コソボやマケドニア、アルバニアなどでよく話されている言語です。この時代はこれらの

国々にとつては非常に苦しいものでした。コソボでも一九七四年に自治権が拡大されるまでは例外ではありませんでした。歴史についてはこれくらいにして、次のスライドの写真をみてください。これは確か一九九一年頃の写真だったかと思いますが、コソボはセルビアによる支配を受けており、アルバニア語による教育が禁止されていました。私たちはそれに屈せずまったく別の教育体制を確立しました。この写真では家庭が学校となっており、生徒はホームスクールを通じて教育を受けていました。次の写真は一九九九年の難民キャンプでの写真です。この写真に写っている男の子は戦争から逃げ際に家族と離れ離れになってしまいました。これは当時珍しくないことでしたが、この写真は国外の難民キャンプで家族と再会した際に撮影されたものです。これらの戦争などを乗り越え、現在のコソボは少しずつ発展してきています。コソボの平均年齢は非常に若く、三〇歳を下回っています。多くの国では外国から来た者は多少なりとも異質な者として見られる場合があると思いますが、コソボではその逆で、好意的に受け入れられる場合が多いです。なぜならコソボでは独立時に多くの人々が、例えば、憲法の制定など様々な分野において助けてくれたからです。むしろ、日本からも多くの人が助けになってくれました。コソボの国旗はそれまでの歴史とは関係がなく、むしろコソボの未来と関係があります。青

と黄色というヨーロッパの色を使用しており、六つの星はコソボで話される六つの言語をあらわしています。コソボではマジヨリティの言語が九〇%以上を占めています。独立時に国内のすべての民族が居心地よくなってほしいとの願いが込められて六つの公用語があります。コソボの憲法はこれらすべての民族コミュニティに大きな権利を保障しているという点で、非常にユニークです。例えば、多くの国では憲法を改正するには三分の二の賛成が必要です。コソボでは、全体の三分の二の賛成に加え、議会に参加するそれぞれの民族からも三分の二の賛成がなければ憲法を改正することができません。コソボでは個人の権利だけでなく、集団の権利が高いレベルで保障されているのです。私たちはマイノリティではなくコミュニティという言葉を使いますが、コソボではすべてのコミュニティが平等に言語に関わる権利を持っています。こうして、コソボはアメリカや日本、イギリス、フランス、ドイツなど民主的な国家と交流を深めており、EUなどの国際的な組織にも参加を試みています。またセルビアとも近年協定を結んでおり、例えば、IDカードで国境を越えることができるようになりました。もちろん問題はまだまだ数多くありますが、少しずつ状況はよくなっていると言えるでしょう。経済の状況も戦争後は変わってきています。例えば、現在ではEUと自由な取引を行うことができるようになってい

ますし、近年の調査ではビジネスをするのに魅力的な国として世界の上位五〇国以内に入っています。コソボで作られたもの、例えば、ブルーベリーやラズベリーなどは世界に向けても輸出されています。

コソボの文化的遺産、観光、食文化

次のスライドはコソボの文化的遺産の写真です。左の写真はクラと呼ばれる昔の住居であり、小さな窓がついているのが分かると思います。なぜこのような小さな窓がついているか分かりますか。これは住居のセキュリティと関わっていて、招かれざる者が来た時にその窓から発砲できるようになっています。昔の農村部では家庭の防衛は自分たちで行う必要があります。これはローマ帝国時代からキリスト教が残っている理由の一つであると考えられています。またコソボは自然も豊かで、山や谷には歴史的な城なども残されています。次の写真はコソボの国立図書館であり、九九の白いドームがついています。このドームがなぜついているのか、分かる方はいらっしゃいますか。本を読むためには脳が必要ですよね。このドームは人間の脳を模しています。この図書館は一九七五年に建てられたもので新しい物ではありませんが、全ての読書室に自然の光が差し込むようになっているのはとても興味深いですね。また八月には世界的なドキュメンタリー

映画の祭典が行われており、訪れるにはいい季節だと思えます。戦争が行われていた国と聞くととても危ないというイメージを持つかもしれませんが、日本の外務省からはコソボは安全な国であると評価されており、非常に嬉しく思います。コソボでは観光は産業として大きくはありませんが、コソボという国を知ってもらう手段として観光を推進しており、少しずつ盛んになっているところです。

次にお話する食べ物はとてもみなさんの興味をひくところかと思えます。先程は言語の話をしました。食べ物も歴史を知り、また文化に通じています。コソボの食べ物は実に多様です。特に過去に戦争を経験したことのある地域では、い食べ物が多くあります。なぜなら、戦争が起きるといことは異なる文化がそこに存在したことであり、ミックスされたからです。異なる文化がミックスされる際には、お互いのレシピを混ぜ合わせ新しい食べ物を創り出すのです。コソボも同様に、様々な地域の食べ物がミックスされていると言えるでしょう。パイや肉料理など、健康的とは言えませんが、とてもおいしいものがたくさんあります。

日本とのつながり

コソボと日本のつながりは、以前から始まっていたと思いますが、私がよく覚えているのは緒方貞子氏が九〇年代に国連人権委員会の日本代表であった時、私たちが最も苦しい時代を生きていた時に声を上げてくれたことが始まりです。私たちはこれに深く感謝し、数年前に氏に勲章を授与しました。同氏が今年亡くなられたことは大変残念に思います。次の写真も日本とのつながりの一つです。みなさんはヨーロッパで一番大きな椎茸工場がどこにあるかご存知ですか。この流れ



コメンテーターとして登壇した鈴木健太先生

でお分かりかと思いますが、コソボです。日本からの最大の投資がこの工場となっています。ヨーロッパのどこかのお店で椎茸を食すことがあったとしたら、おそらくそれはコソボから輸出されたものでしょう。私たちはこれを大変嬉しく思っています。

他にも共通点があります。次の写真を見てください。これは京都でも金沢でもなく、コソボにある街の写真です。この昔の街並みは一度戦争で焼け落ちましたが、復元されたものです。もう一つはなんでしょうか。日本の縄文時代にあったものと似ていますよね。そうです、はにわです。同じ時期にこのように似たものがあったことが分かっています。次の写真は昔コソボの食卓として使われていた物です。日本の物（ちゃぶ台）と同じような高さで、円形をしていますよね。またコソボではスリッパも使用します。恐らくコソボは日本と同様にトイレで別のスリッパに履き替える、ヨーロッパで唯一の国ではないでしょうか。これらのおかげで、日本の家庭に赴くと私は非常に落ち着きます。また、温泉や、相撲など、日本の文化と非常に似た文化がコソボにはあります。柔道なども日本とコソボをつなげる一つの役割を担っているように思います。以前日本武道館で行われた試合では、日本のみなさんがコソボの代表を応援してくれる場面もありました。このような民間レベルだけではなく、政治的なつながりも少し

ずつ強くなってきました。例えば、先日は一か月の間に二回も会談が行われましたし、一月にはコソボに日本大使館が設置されることが決まっています。このように様々なレベルでコソボと日本が親しくなっていることを非常に嬉しく思います。

まとめ

簡単ではあるが、以上が講演会の概要である。この講演の後には質疑応答が行われ、日本とコソボの親近性や、温泉や住宅、また食べ物について質問が行われた。また、様々な外国語を使用することができるマラゾーク大使に対して、外国語を学ぶモチベーションに関する質問や、様々なコミュニケーションが存在し多くの言語が話されているコソボ内での言語教育についてなど、専門的な質問もあった。多くの質問に対して、大使は一つ一つ丁寧に答えており、参加者はどれも興味深く聞き入っていた。講演に参加した学生にとっては、日本とは異なる国の状況を知るとてもよい機会となり、外国語を学ぶ意味、ひいては文化を学ぶ意味についてより深く考えるよい機会となったのではないだろうか。



講演終了後、マラゾーク氏を囲んで